特定非営利活動法人

性暴力救援センター・大阪 SACHICO　設立趣意書

性暴力被害にあった女性たちの多くは、恐怖と屈辱と混乱の中で、「誰にも言えない、知られたくない、考えたくない」と一人で悩みます。この時、できるだけ早く医療的・心理的な支援を受けることが、心身の回復にとって非常に重要です。時が経過するほど心的外傷は深くなり、回復は遅れます。心身に及ぼす影響のみならず、その女性の生活、さらには人生までも変えてしまうこともあります。しかし残念なことに日本においては、性暴力被害者のための緊急支援体制は未だに確立されていません。

私たちは、「産婦人科医療の場で」「精神科医療の場で」「カウンセリングの場で」「法律相談の場で」「女性支援の活動の場で」、長年にわたり数多くの性暴力被害者に接し、その苦悩を目の当たりにしてきました。そして、被害にあった方にまず必要なのは、寄り添ってくれる人の存在と、心のサポートと医療支援であり、次に警察による捜査や法律家による法的支援であることを痛感しています。これらの支援を被害者が動き回ることなく、一か所で総合的に受けることができる体制、すなわち「被害直後からの総合的な支援」をめざして、「性暴力救援センター・大阪 Sexual Assault Crisis Healing Intervention Center Osaka（性暴力危機治療的介入センター大阪）（SACHICO）」を、2010 年 4 月阪南中央病院内に設立しました。同時に、センターの機能を維持強化するための関連機関とのネットワーク「女性の安全と医療支援ネット」を構築しました。

被害にあわれた方は、ホットラインにて支援者とつながり、安全な場所 SACHICO で、支援者とともに起こったことをゆっくりとふりかえりつつ、心と身体の回復を図ります。医療の必要性を納得できれば、産婦人科医師による診察と検査・薬の処方を受け、場合によっては証拠採取にも応じます。警察に連絡し、警察官に来てもらうことも可能です。そして弁護士に相談したり、継続的なカウンセリングを受けるなど、被害者が「自分で選ぶ」を大切にして、「女性の安全と医療支援ネット」に加わっている機関と連携した支援を受けられるようにしてきました。

SACHICO 設立後 3 年を経過し、1 万件を超える電話相談と 600 人に及ばんとする被害者の来所がありました。SACHICO の存在が世の中に認知されるにつれ利用する方が増えている実態は、被害を受けても声に出せないでいる女性たちが如何に多いかを表しています。

性暴力は、人間としての尊厳を脅かす、決して許すことのできない卑劣な行為です。被害者の多くが女性であり、加害者の多くが男性であるという事実は、女性を性的に支配することが許される社会的風潮が根強く存在していることを表しています。

被害者の回復と性暴力のない社会の実現のため、そして、このような活動を全国に広めるために、SACHICO を特定非営利活動法人組織とします。

2013 年 7 月 12 日　　特定非営利活動法人　性暴力救援センター・大阪 SACHICO